

令和7年度 静岡県 英語教育改善プラン

目標

主体的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする児童を育成する
～伝えたいという思いがあふれる言語活動を目指して～

☒ 言語活動 ☒ 指導と評価の一体化 ☒ 教師の英語力・指導力 ☒ 校種間連携 ☐ ALTの参画 ☒ ICTの活用 ☐ AIの活用 ☐ その他
(パフォーマンステスト含む) (専科教員含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

①単元を通した言語活動の設定について、その理解や実践が進んでいる。
②授業における、児童の英語による言語活動時間の割合は、高く保たれている。
(R3:89%→R4:89%→R5:90%)

未だ改善が必要な点

①サポート体制を充実させて、教員が自信をもって授業に取り組めるようにする。
(R5:52%→R6:51%)
②授業において教員が発話の50%以上を英語で行えることを目指す。
(R5:56%→R6:53%)
③ALTが中心となって指導(単元構想含む)する割合の増加が見られる。
(R5:27%→R6:31%)

2. 要因分析

①②小学校外国語活動・外国語科授業づくり研修で、単元を通した言語活動の設定について授業協議や演習を行った。
授業の中で、一人一人の学びに応じた支援や指導を取り入れることの意義について学ぶ機会があったことが要因として考えられる。また、魅力的な言語活動設定の重要性が浸透し、言語活動の時間が確保されるようになったことも要因と考えられる。

①②③単元を通した言語活動の設定が重要であることは理解され始めている。しかし、他教科に比べ、外国語活動・外国語科について専門性をもった教員が少なく、外国語を使用することや単元計画を作成することにまだ不安を感じていることが要因と考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

①②単元を通した言語活動の推進

小学校外国語活動・外国語科授業づくり研修会において、言語活動を中心とした授業づくりに係る講義・演習を通し、英語指導力向上を図る。単元を通した言語活動の設定に係る演習を設定し、自校での教材研究の充実、単元構想の実践に生かす。

①②言語活動を中心とした小中高の連携

小中学校主催の*GRIDにおいて、言語活動を中心とした授業づくりの際に効果的な方法や実践例を共有できるようにする。また高校と連携した*GRID合同研修会を年間複数回実施し、他校種の教員との情報交換及び協議を行う。

①②③言語活動のさらなる普及推進

研修会において、授業づくりに対する課題共有、自校での取組の現状を協議する場を設け、教員が自信をもって授業に取り組めるようにする。

③ALT資質向上事業

ALTに対し、実践研修を通して資質及び指導力の向上を図る。ALT資質向上研修は、外国語活動・外国語科の授業担当との連携に関する内容も含む。

***GRID:新時代に対応した英語指導力向上サポート研修(オンライン)**

小学校英語専科指導に係る加配定数活用

小学校教員採用試験において、英語資格・英語免許保有者に対する加配制度を実施している。

令和7年度 静岡県 英語教育改善プラン

目標

主体的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする生徒を育成する。
～伝えたいという思いがあふれる言語活動の質的向上を目指して～

○CEFR A1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合 (R6 : 39% ⇒ R7:45%)

☒ 言語活動 ☒ 指導と評価の一体化 ☒ 教師の英語力・指導力 ☒ 校種間連携 ☐ ALTの参画 ☒ ICTの活用 ☐ AIの活用 ☐ その他
(パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

未だ改善が必要な点

①生徒の英語力について、CEFR A1相当以上の英語力を有する生徒の割合に増加が見られる。

(R5 : 36% → R6:39%)

② I C T 機器の活用状況について、すべての項目で増加が見られる。

(R5からR6の増加%

録音・録画 : 8% ↑

コンテンツ活用 : 7% ↑

メール等 : 3% ↑)

①単元を通した言語活動の設定について、浸透しているが、不十分である。

②授業における、生徒の英語による言語活動時間の割合が頭打ちとなっている。

(R3:66% → R4:66% → R5:75%)

2. 要因分析

①学校訪問や研修会、中学校英語指導力向上事業において、研修協力校の取組を県内に伝達し、授業改善が図られたことが要因と考えられる。

②学校訪問や研修会で、生徒の学びの履歴やパフォーマンス評価におけるICT活用の事例が多く見られた。ICT活用の具体的な場面が県内で共有されたことにより、授業での活用が増加したと考えられる。

①②学校訪問や研修会において、単元を通した言語活動設定の重要性について周知しているが、言語活動の時間の確保が十分できていないことが考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

①全県で取組を共有する体制の推進

静東地区・静西地区の中学校を研修協力校として運営協議会、連携推進会議、校内授業研修会を通して、英語指導力向上を図るとともに、公開授業研修会を対面とオンラインのハイブリッドで開催し、成果普及を図る。他校種の教員にも参加を仰ぎ、各学校段階での学習状況等を共有する体制を整えることで、県内の学校英語教育の底上げを図る。

②小中高連携の推進

小中高合同研修*GRIDを年間複数回実施し、他校種の教員との情報交換及び協議を行う。特に、小中学校主催のGRIDにおいては、言語活動、言語活動を支える活動、ICT活用等をテーマとして設定し、授業づくりにおいて効果的な方法や実践例を共有できるようにする。

①②言語活動の普及推進

研修協力校による公開授業や大学教授等による指導・助言を通して、言語活動の設定及びその質的向上についての理解を深める。

また、中学校における外国語教育の推進に向けて、外国語教育を推進する学校教員に対し研修を行い、外国語教育に携わる教員全体の指導力の向上を図る。

*GRID:新時代に対応した英語指導力向上サポート研修(オンライン)

令和7年度 静岡県 英語教育改善プラン

主体的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする生徒を育成する。
～言語活動の質的向上を目指して～

○授業における、生徒の英語による言語活動の割合（％）（R6：55.9％ ⇒ R7：75％）

目標

☒ 言語活動 ☒ 指導と評価の一体化 ☒ 教師の英語力・指導力 ☒ 校種間連携 ☐ ALTの参画 ☒ ICTの活用 ☐ AIの活用 ☐ その他
(パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

未だ改善が必要な点

- ①教員の英語力の状況について、CEFR B2レベル相当以上を取得している数に増加が見られる。
(R5:82.3%⇒R6:85.7%)
- ②ICT機器の活用状況について、ほぼすべての項目で増加が見られる。
(R5からR6の増加%：
録音・録画 △8.2%増
キーボード入力 △5.9%増
メールやチャット △1.6%増)
- ①授業の半分以上、生徒が英語による言語活動をしている割合にほとんど増加が見られない。
(R3:51.1⇒53.7 ⇒53.8 ⇒R6:55.9)
- ②教員の英語使用状況について、発話の50%以上を英語で行っている割合が減少している。(R3:49.3 ⇒50.6 ⇒44.0 ⇒R6:41.9)

2. 要因分析

- ①*GRIDの研修や「指導と評価の一体化の計画」の回収によって、CAN-DOリストへの理解が深まり、教員自身の英語力向上への動機づけにつながったと考えられる。
- ②BYODの導入が追い風になっている。資質・能力の育成に向けたICTの効果的な活用について、学校訪問等で情報交換及び協議を実施した。これらのことが教員の動機づけにつながり、活用が促進されたと考えられる。
- ①生徒の英語による言語活動や学習者主体の教授法について、教員の理解が十分に進んでいないことが要因と考えられる。
- ②説明や指示を英語で行う場面は増えているものの、英語で生徒とやり取りすることには不安を感じる教員が多いと推測される。

3. 目標を達成するための施策・事業

- ①各校の取組を全県で共有する体制の推進
教員の英語力向上のため、年次別研修や*GRIDのオンライン研修にて、英語による講義を聴講する機会を作る。「CAN-DOリストに基づく指導と評価の計画」や*パフォーマンステストの共有により、CEFRやCAN-DOについての理解を深める。
- ②小中高連携、自治体連携の推進
ICTの効果的な活用を目指し、*GRIDの小中高合同研修や*アライアンスの研修にて、他校種や他県との情報交換及び協議を実施する。
- ①②言語活動の質的向上の推進
学習者主体の授業を推進するため、年次別研修、*GRID、教育課程研究集会、地域の授業検討会等の各研修にて、個別最適な学びやペアやグループでの協働的な学びについて理解を図る。
- ①②教員と生徒の「話すこと[やり取り]」力の向上
教員の生徒とのやり取り力を高めるため、年次別研修、*GRID、教育課程研究集会、地域の授業検討会等の各研修にて、教員の発問力向上に向けて、実践事例を交え、講義や演習を行う。

*GRID:新時代に対応した英語指導力向上サポート研修(オンライン)
*アライアンス:自治体連携オンライン英語授業改善サポート研修
*パフォーマンステストの共有:CAN-DOリストに基づく4技能型テスト作成力向上研修

目標達成状況一覧表

静岡県教育委員会

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027	
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
高等学校	①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）	60	55.7	60	56.3	60		60		60	
	①CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）	30	20.7	30	24.5	30		30		30	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合（％）	75	53.8	75	55.9	75		75		75	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合（％）	70	77.1	80	91.0	80		80		80	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100	99.1	100		100		100		100
		公表（％）	80	51.4	80		80		80		80
		達成状況の把握（％）	100	68.5	100		100		100		100
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合（％）	85	82.3	85	85.7	85		85		85	
	⑥英語担当教員の授業における英語使用状況（％）	75	44	65	41.9	65		65		65	

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027	
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
中学校	①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）	50	36	45	39.7	50		55		60	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合（％）	90	75	80		85		90		95	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合（％）	90	82	90		95		100		100	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100	100	100		100		100		100
		公表（％）	70	66	75		80		85		90
		達成状況の把握（％）	85	79	85		90		95		100
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合（％）	50	49	55	48.3	60		65		70	
	⑥英語担当教員の授業における英語使用状況（％）	90	64	75		80		85		90	

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027	
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	80	76	85		90		95		100
		公表（％）	50	50	55		60		65		70
		達成状況の把握（％）	65	61	70		75		80		85